

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2012年4月～2013年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山市立京山中学校
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
住所 〒700-0087
岡山市北区津島京町1-7-18
Website: http://www.city-okayama.ed.jp/~kyoyamac/
児童生徒数：男子 456名 女子 366名 合計 822名
児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者

3. 実施活動 (複数選択可)

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動概要

- 1 本校のユネスコスクールとしての活動・ESDの特徴
総合的な学習の時間を中心に、「環境学習」「平和学習」「人権学習」「国際学習」の視点を踏まえ、各教科で学んだ知識を実践的に活用し、持続可能な人材育成をめざし、「心を磨き、社会性を高める学習」に取り組んでいる。
- 2 ユネスコスクールとしての活動・ESDの全体的な実施状況

(1) 「環境学習」の取り組み

3年生で、環境をテーマにした専門機関への聞き取りやインタビューを通して、個人テーマの追究活動を行った。3年生の13グループ33人が「環境によい昔の人の知恵を調べよう」「身近なエコ活動をしよう」「使い道がなくなった廃油を変身させよう」などの問題をテーマに活動を行い、総合文化発表会当日は発表部屋（ブース）での発表やワークショップ、提言を行った。

(2) 「平和学習」の取り組み

1年生の後半から2年生での広島研修に向けての平和学習を行った。1年生は、「なぜ平和を学ぶのか」から始まり、「歴史背景～なぜ原爆は投下されたのか～」「ビキニデー～核実験で被爆した第五福竜丸～」を学習した。また、「兵器の開発（ベトナム戦争の枯れ葉剤、アウシュビッツのガス室、大久野島の毒ガス）や広島・長崎の原爆（壊滅状態の惨状・被爆者の実態、苦悩・戦時中の市民生活）の学習を予定している。2年生では、1年生で学んだことをもとに、大久野島と広島市内でフィールドワークをや被爆者の講演などを通しての成果をグループでまとめた。総合文化発表会では、ステージでの発表や発表部屋での発表、展示という形で発表した。後半からは「特攻について」をテーマに学習し、3年生になってからの修学旅行での活動へとつなげていく。鹿児島への修学旅行で、知覧特攻平和会館への訪問を機会に、特攻隊を通して平和について考え、総合文化発表会で13グループ29人が学んだことを劇やスライドなどで発表、提言した。また、平和へのメッセージを込めた演劇「つながり」を、生徒自らが脚本から創り出し、学年の取り組みとして上演した。

(3) 「人権学習」の取り組み

1年生では、福祉について「ユニバーサルデザイン」「盲導犬・聴導犬」「高齢者福祉」「パラリンピック」等のテーマごとにグループを作り調査研究し、展示物にまとめ発表した。また、視覚障害者の方を招いての講演会やハンセン病について学習した。2年生では原爆投下後に広島で起きた差別問題について学習するとともに、2学期後半に中学校区にある万成病院と連携し、心の病気「統合失調症」について学習をした。「統合失調症」について正しい理解や差別・偏見について考えるとともに、当事者の方をサポートする施設について学習し、当事者の方々との交流会を行った。このことについては、京山公民館でのESDフェスティバルで、地域への提言として生徒による発表を行い、地域の方とともに人権について考えた。3年生では、「いのちを育む授業」で赤ちゃんとの触れあいを通して、命の大切さや重さ、親子のつながりを実感できる取り組みを行った。

(4) 「国際学習」の取り組み

2年生では「世界がもしも〇〇人の村だったら」というワークショップを行い、「世界の多様性と貧富の差」「世界の中での日本」等について考えた。3年生は、2年生での学びをもとに11グループ21人が「世界で活躍する日本人」「スポーツと外国とのつながり」等をテーマに発表や提言を行った。また、3年生全クラスでESDの視点で「小さな『地球のすばらしさ』を感じ取ろう」というテーマで、学校のグラウンドの砂から世界の砂まで、砂から見える鉱石の素晴らしさについて、国立教育政策研究所や岡山理科大学等の専門機関との連携のもと、英語を使った理科の授業に取り組んだ。

3 特徴的な活動・ESD事例の紹介

(1) 第12回総合文化発表会（SKF）

スローガン「We can make it! ～絆で描く 京山の虹」

目的 ① 総合的な学習の一環として、問題や課題に主体的・創造的に取り組んできた本校の生徒に、発表の機会を与え、学習の成果や内容を学び合う場とする。

- ② 学校全体で一つの行事に取り組むことにより、生徒の連帯意識を高める活動とする。
- ③ 開かれた学校をめざし、地域との交流をはかり、保護者や地域の参加の活動をめざす。また、地域住民に中学生を理解してもらうためのきっかけにする。

(2) 実践の展開

- ・ 3年生が、1年生からの平和学習、国際学習、環境学習、人権学習での学びをもとに、3年間の総まとめとして個人テーマを設定し、調べ考えたことを、全体でのステージ発表や発表部屋（ブース）での発表、ワークショップ開催等の形で発表した。
- ・ 1年生、2年生は、学年やグループ単位での取り組みを発表した。
- ・ 地域やOBの方によるワークショップも開催した。
- ・ 生徒会主催のバザーを開催し、収益金を気仙沼の面瀬中学校に送った。

(3) 成果と課題

- 各自が個人テーマを設定して研究発表した3年生を中心に達成感があり思い出に残るものとなった。
- 取り組みの過程にも多くの人々との関わりや協力があり、発表会当日も保護者や地域の方との触れあいが随所に見られ、絆を実感できるものになった。保護者、地域の方併せて、延べ800名の来場者があった。
- 地域への発信や提案内容においては、まだ十分とはいえず、話を聞いたり働きかけをしたりする体験や、単なる調べ学習ではなく探究的な活動の質の向上を目指していく必要がある。

4 今年度の成果と課題

- 学校の諸活動をESD視点で見直すことで、教職員間の共通理解を深めることができた。
- 総合的な学習の時間における取組と各教科との関連をESD視点で見直し整理し、ESDカレンダーとしてまとめていく。
- 国内、海外のユネスコスクールとの交流を図っていきたい。
- 地域と連携したESDをさらに進めていきたい。

活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。※公表しません

- 紙媒体の参考資料（新聞、出版物など）
- CD-ROM
- 写真
- その他（ ）